

# Kansai Economic Insight Monthly

2015/3/20

Vol.23 February/March

・APIR “Kansai Economic Insight Monthly” は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。

・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、岡野光洋・林万平・木下祐輔・James Brady（各 APIR 研究員）です。

・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
景気の現況	2
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	12
Release Calendar	13

## 要旨

- ✓ 1月の鉱工業生産指数は前月比+5.8%と2カ月連続の上昇。生産の基調は緩やかな回復である。
- ✓ 2月関西の貿易は、輸出は24カ月連続で前年比増加、輸入は2カ月ぶりに同増加。結果、貿易収支は2カ月連続の赤字となり、赤字幅は同870億円悪化した。
- ✓ 2月の消費者態度指数は3カ月連続の前月比改善。同月の景気ウォッチャー現状判断DIも3カ月連続の改善。春節もあり訪日外国人消費が改善に寄与。消費者心理に改善の動きがみられる。
- ✓ 11月(関西2府4県)、12月(関西コア)の現金給与総額の伸びは前月から加速。賃金は上昇基調が続いている。
- ✓ 1月の大型小売店販売は7カ月連続の前年比プラスで小幅改善を続けているものの、百貨店では前年増税前の駆け込み需要の影響がみられ、減少に転じた。
- ✓ 1月の新設住宅着工戸数は5カ月連続の前年比大幅減。持家と貸家、分譲が全て減少した。
- ✓ 1月の有効求人倍率は横ばい。2カ月続いた改善傾向が一服したが、インバウンド需要への対応から卸売・小売業や宿泊業で新規求人が増加。失業率は上昇したが非労働力人口減少と就業者数増加がみられる。
- ✓ 2月の公共工事請負金額は前年比-18.3%と4カ月連続の大幅減。公共工事受注は引き続き減速している。
- ✓ 1月の建設工事は前年比+1.4%と33カ月連続の増加も、伸びは10カ月連続で1桁となった。建設工事の伸びは停滞している。
- ✓ 関空への訪日外客数は大幅な伸びが持続している。2015年1月には、訪日外客数が287,120人(前年比+34.0%)と、24カ月連続で増加。一方、出国日本人は239,090人(同-6.2%)と、13カ月連続の低下となった。
- ✓ 2月の中国の製造業購買担当者景況指数は、2カ月ぶりに前月から改善したが、2カ月連続で50を下回っている。

【関西経済のトレンド】

	2014年											2015年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
生産	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↗		
貿易	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	
センチメント	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↗	
消費	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗		
住宅	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘		
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗		
公共工事	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	
中国	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	

【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

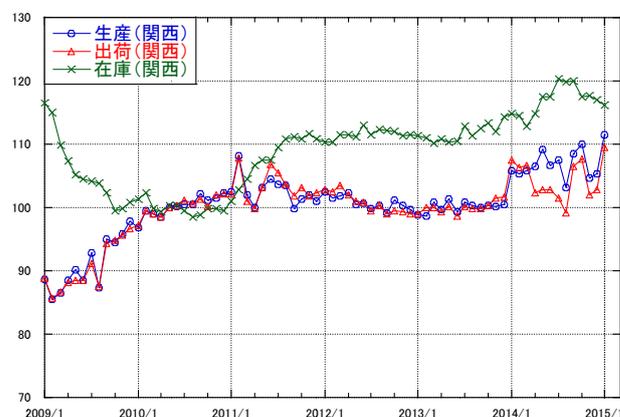
1月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は111.5で前月比+5.8%、出荷は109.6で同+6.5%といずれも2カ月連続の上昇。在庫は116.2で同-0.8%と2カ月連続の下落となった。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同+17.2%)、電気機械(同+17.0%)、金属製品(同+9.0%)等を中心に幅広く上昇した。一方、その他(同-2.0%)、化学(除医薬品)(同-0.3%)等が下落した。

足下、生産、出荷とも大きな伸びが見られ、在庫も減少が続いている。生産の基調は緩やかな回復である。

なお、1月の鉱工業生産の大幅上昇の背景には実質輸出の増加があると考えられる。実際、関西の実質輸出と生産指数との間には強い正の相関関係が見られる(相関係数：0.86、2009年1月～2015年1月)。

鉱工業指数の推移(関西：2015年1月まで、平成22年=100)

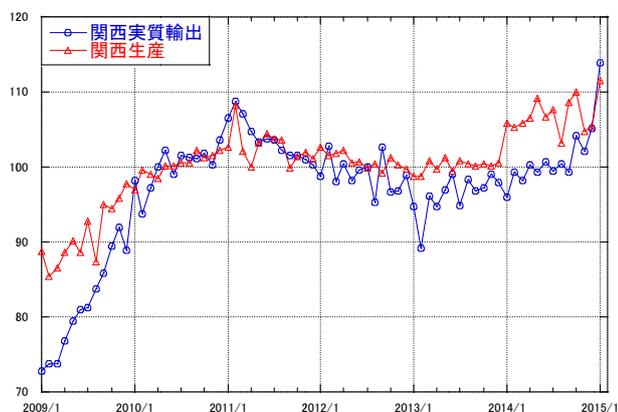


(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

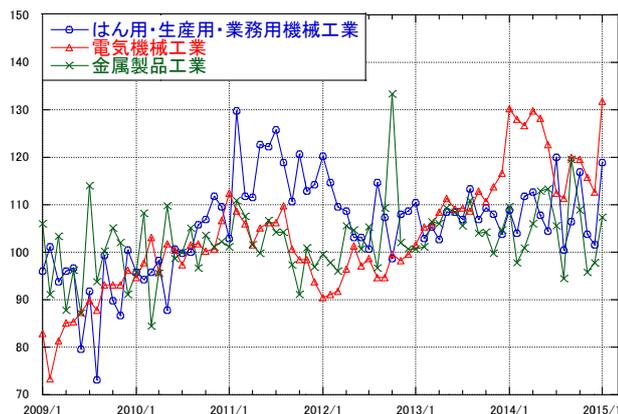
関西の実質輸出と鉱工業生産指数の推移

(2015年1月まで、季調済、平成22年=100)

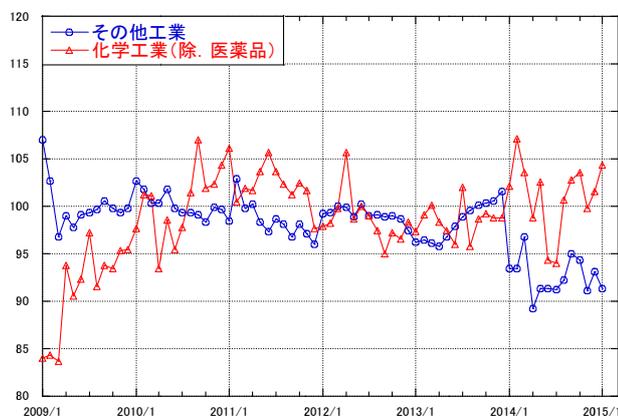


(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」、日本銀行大阪支店  
業種別生産指数の推移(関西：2015年1月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移 (続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

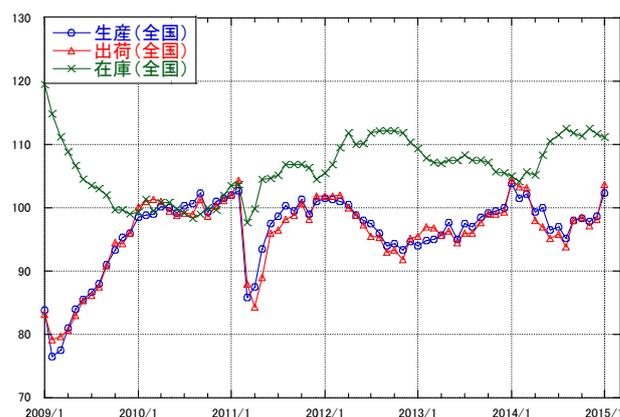
(2) 全国の生産動向

全国における1月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は102.4となり前月比+3.7%、出荷は103.7で同+5.6%といずれも2カ月連続の上昇。在庫は111.2で同-0.4%と2カ月連続の下落となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+9.1%)、輸送機械(同+4.0%)、電気機械(同+5.7%)等を中心に幅広く増産となった。一方、パルプ・紙・紙加工品(同-0.5%)、石油石炭製品(同-0.4%)は減産となった。

生産は増産となったものの、製造工業生産予測調査(同+6.3%)を下回った。なお、同調査によれば2月は同+0.2%と増産の予定だが、3月は同-3.2%と減産の見込みである。

鉱工業指数の推移 (全国：2015年1月まで、平成22年=100)



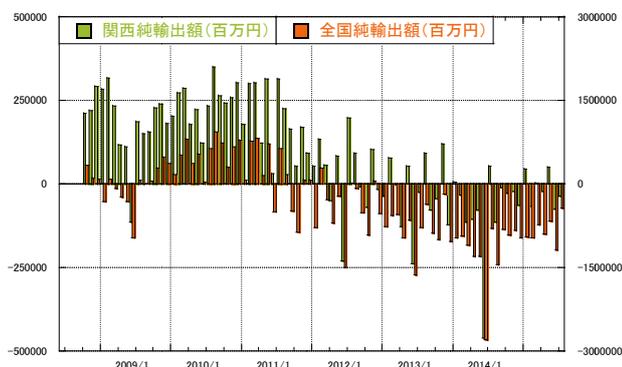
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、2015年2月関西の貿易収支は-362億円と2カ月連続の赤字となり、前年同月から870億円悪化した。全国の貿易収支(速報値)は-4,246億円と32カ月連続の赤字も赤字幅は同-47.3%縮小し、5カ月連続のマイナスとなった。

関西純輸出(左軸：百万円)・全国純輸出(右軸：百万円)推移  
(2015年2月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

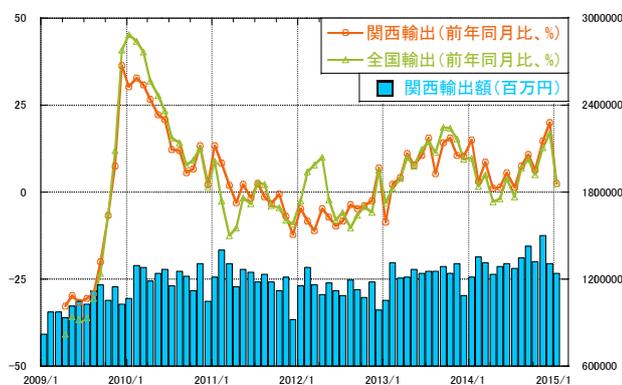
## (2) 輸出

関西2月の輸出額(速報値)は1兆2,425億円となり、2月の最高額を更新した。前年同月比+2.5%と24カ月連続の増加。財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、通信機であり、いずれも単月過去最高額を記録した。一方、有機化合物、鉱物性燃料は減少となった。

全国2月の輸出額(速報値)は5兆9,411億円となり、前年同月比+2.4%と6カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、金属加工機械等の輸出が増加した。

関西、全国共に輸出は増勢が続いているが、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は前年同月比-14.9%の円安であったことを考えれば、ドルベースの伸びは低下している。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2015年2月まで)

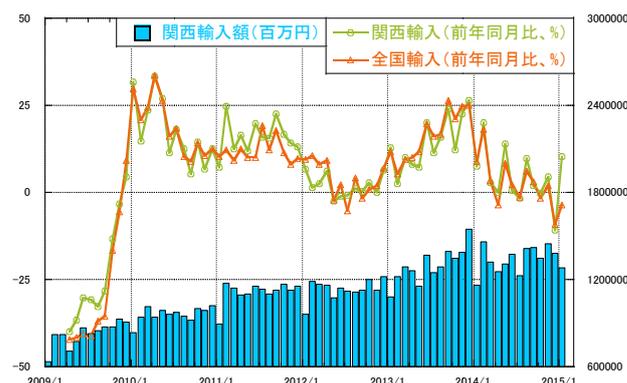


(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

## (3) 輸入

関西2月の輸入額(速報値)は1兆2,786億円、伸びは前年同月比+10.1%と2カ月ぶりの増加。財別に見れば、衣類及び同付属品(単月過去最高額)、半導体等製造装置(単月過去最高額)等が増加した。一方、原油及び粗油、石油製品は減少した。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2015年2月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

全国2月の輸入額(速報値)は6兆3,657億円、前年同月比-3.6%と2カ月連続の減少。財別に見れば、原油、石油製品、液化石油ガス等の輸入が減少した。

なお、輸入額に対する原油の寄与度は関西6.7%、全国10.4%であった。

## (4) 関西の地域別貿易

2月関西の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+415億円となり13カ月連続の黒字であった。ただし、黒字幅は前年同月比-76.8%減少した。輸出は6カ月連続で増加したが小幅のプラスにとどまった(同+0.1%)。財別に見れば、半導体等電子部品、通信機等が増加した。輸入は2カ月ぶりのプラス(同+22.0%)。財別に見ると、衣類及び同付属品、通信機等が増加した。

うち、対中貿易収支は-1,799億円と36カ月連続の赤字。赤字幅は8カ月ぶりに前年同月から拡大した(前年比+2129.7%)。輸出は11カ月ぶりに減少(同-12.0%)。一方、輸入は2カ月ぶりの増加(同+46.1%)であった。

対米貿易収支は+802億円と黒字基調が続いており、黒字幅は6カ月連続で前年から拡大した(同+6.7%)。うち、輸出

は9カ月連続の増加(同+17.3%)。財別に見れば、電池、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入は2カ月ぶりの増加(同+27.4%)であり、財別に見れば、無機化合物、半導体等製造装置等が増加した。

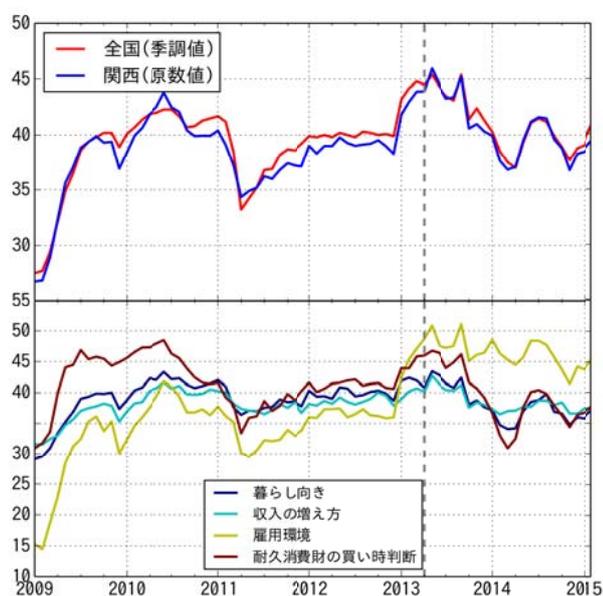
対EU貿易収支は+14億円と4カ月連続の黒字となり、前年から33億円改善した。うち、輸出は5カ月連続の増加(同+7.9%)。財別に見れば、自転車及び同部分品等が増加した。輸入は4カ月ぶりの増加(同+5.0%)。財別に見れば、半導体等製造装置、医薬品等が増加した。

## 【消費者センチメント】

### (1) 消費者態度指数の動向

関西の2月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.8ポイントの39.3と、3カ月連続の改善。全国(季節調整値)でも同+1.6ポイントの40.7と3カ月連続で改善している。消費者心理に改善の動きがみられる。

消費者態度指数(2015年2月まで)



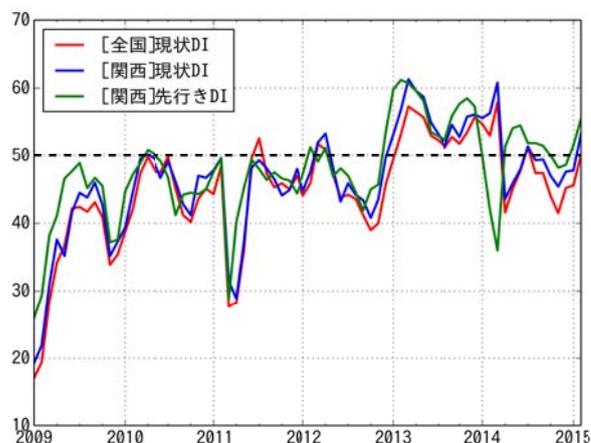
(出所) 内閣府「消費動向調査」

関西で同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」が同+1.3ポイント、「雇用環境」が同+1.5ポイントと、いずれも2カ月ぶりに改善に転じている。「耐久消費財の買い時判断」も同+0.8ポイントと3カ月連続で改善。一方、「収入の増え方」は同-0.3ポイントと3カ月ぶりに小幅悪化している。

### (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の2月の現状判断DIは前月比+5.5ポイント大幅上昇し53.3となった。3カ月連続の改善で、昨年7月(51.4)以来7カ月ぶりに50を上回った。春節など訪日外国人の消費拡大がセンチメント改善に寄与したようである。全国も同+4.5ポイントと3カ月連続で改善し50.1となった。

景気ウォッチャー調査(2015年2月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

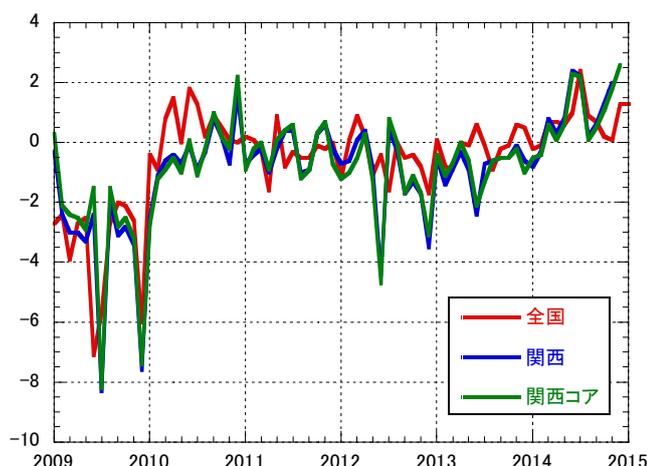
先行き判断DIは、関西では55.5と前月比+3.9ポイントの上昇。原油相場の低下による好影響や賃上げへの期待から、3カ月連続の改善となった。全国は53.2となり、同+3.2ポイントの改善。3カ月連続で改善している。

## 【所得・個人消費・住宅】

### (1) 現金給与総額

11月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は27万3,790円で前年同月比+2.0%と9カ月連続のプラスとなり、前月(同+1.3%)から伸びが加速した。府県別では、和歌山県は同+4.4%と6カ月連続の増加となったが、前月の大幅プラス(+6.1%)から幾分低下した。次いで、京都府では同+3.5%と前月(-0.4%)からプラスに転じた。その他、滋賀県同+3.0%、兵庫県同+1.8%、大阪府同+1.4%、奈良県同+0.4%であった。全ての府県で伸びはプラスとなった。

現金給与総額(前年同月比：%、2015年1月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。  
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」(3月4日公表)

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は、12月に前年同月比+2.6%と10カ月連続のプラスとなり、前月(同+1.8%)から幾分加速した。産業別では、引き続き生活関連サービス等で大きく上昇しており、外国人観光客増加への対応が背景にある。このように賃金は上昇基調が続いている。

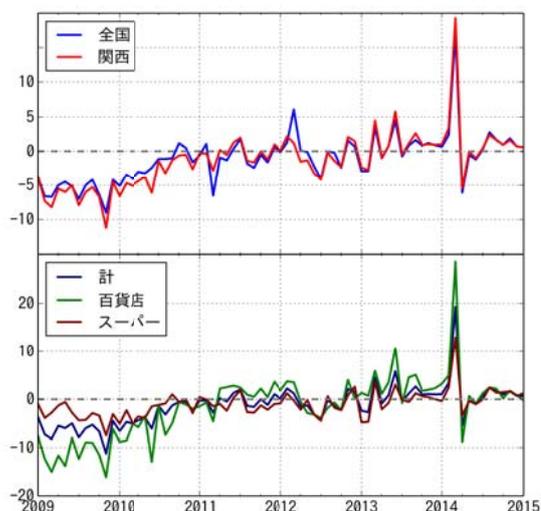
全国(速報値)の現金給与総額は、1月は前年同月比+1.3%と11カ月連続のプラスとなった。内訳をみると、所定内給与は同+0.8%と2カ月連続のプラス。所定外給与は同+2.6%と22カ月連続のプラス。特別給与は同+10.8%と前月(+2.1%)から大幅に伸び、3カ月連続のプラス。現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-1.5%と19カ月連続で低下したものの、3カ月連続でマイナス幅は縮小している。

また、2014年の全国(確報値)の現金給与総額は前年比0.8%上昇し、4年ぶりにプラスに転じており、1997年(同+1.6%)以来17年ぶりの高い伸びとなった。一方、実質賃金は-2.5%と3年連続の低下となった。

### (1) 大型小売店販売額

関西の1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.6%と7カ月連続のプラスだが伸びは減速。百貨店は同-0.3%と7カ月ぶりのマイナス。スーパーは同+1.2%と6カ月連続のプラス。

大型小売店販売額(前年同月比：%、2015年1月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

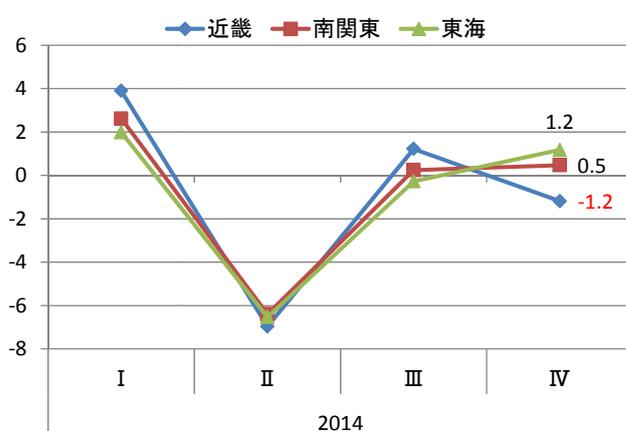
全国でも、1月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.6%と7カ月連続のプラスとなっている。

関西、全国ともに消費は緩やかな改善が続いているものの、百貨店では昨年増税前の駆け込み需要の影響がみられ、減少に転じている。

### (2) 地域別消費動向指数

関西の12月の地域別消費総合指数(季節調整値)は101.9。前月比-0.9と2カ月ぶりの低下。結果10-12月期は前期比-1.2%となった。下表から分かるように、関西は全国11地域で最も落ち込みが大きかった。

地域別消費総合指数(前期比：%、2014年10-12月期まで)



地域別四半期指数(10-12月期)

地域	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸
指数	102.1	104.0	103.6	101.8	105.9	103.7
前期比	-0.6	0.7	0.0	0.5	1.2	0.2

地域	関西	中国	四国	九州	沖縄
指数	101.7	102.7	100.4	102.2	115.7
前期比	-1.2	0.3	-0.6	1.1	-0.3

(出所) 内閣府 「地域別消費動向指数」

関西を府県別にみると、大阪府と奈良県が前月比プラス、その他の県はマイナスである。四半期でみると、10-12月期は滋賀県と京都府がプラス、その他の府県はマイナスとなった。

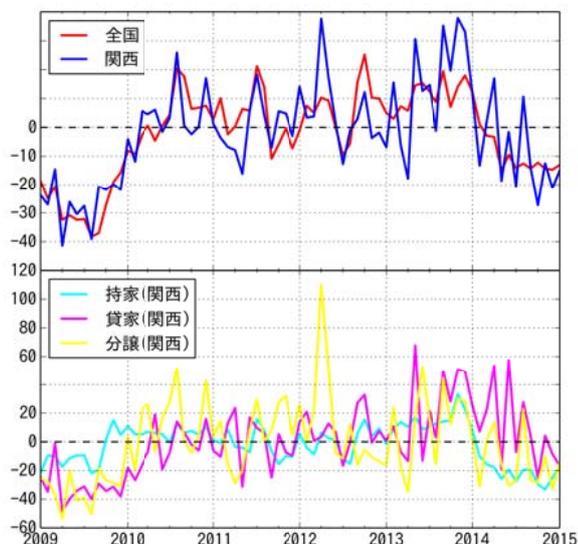
(3) 新設住宅着工の動向

関西の1月の新設住宅着工戸数は9,605戸。前年同月比-15.0%と2桁の大幅減が5カ月続いている。全国でも同-13.0%と11カ月連続の減少。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-17.1%と12カ月連続で2桁の大幅減となっている。分譲も同-14.2%と2桁減が5カ月続いている。貸家も同-16.9%と2カ月連続で減少。

2月の関西マンション契約率は69.9%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を41カ月ぶりに下回った。原数値をみると、大阪市部では84.3%と高契約率ながら関西では67.1%と13カ月ぶりに70%を下回った。

新設住宅着工(前年同月比: %、2015年1月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

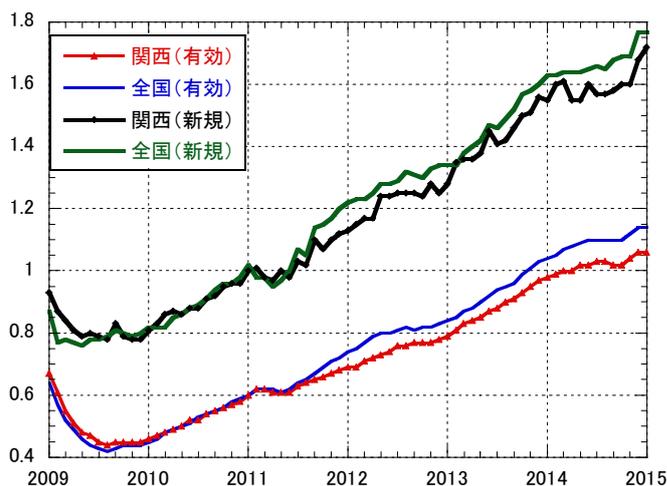
(1) 求人倍率の動向

1月の関西の有効求人倍率は、1.06倍と前月比横ばいとなり、2カ月続いた改善傾向が一服。全国も1.14倍と前月比横ばいとなったが高水準を維持。なお1月から季節指数が改訂。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、受理地別・就業地別ともに奈良県で前月比+0.04ポイントと最も上昇が大きかった。それ以外の府県ではほぼ横ばいであった。

1月の関西の新規求人倍率は、1.72倍と前月比+0.04ポイント上昇し、2カ月連続の上昇となった。訪日外国人観光客増加によるインバウンド需要への対応から、卸売・小売業や宿泊業で新規求人が増加した。全国は1.77倍と前月比横ばい。雇用環境の改善は続いている。

有効求人倍率の推移(季節調整値、2015年1月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況(平成27年2月27日発表)」

関西2府4県有効求人倍率(2015年1月)

1月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.14	1.06	1.00	1.11	1.15	0.95	0.90	1.00
就業地別	1.15	1.06	1.17	1.14	1.02	1.05	1.03	1.09

(2) 完全失業率の推移

1月の関西の完全失業率(季節調整値: APIR推計)は4.0%で前月(3.7%)から+0.3%ポイント上昇し、3カ月ぶりの悪化となった。内訳をみると、非労働力人口の減少と就業者数増加がみられ、より良い条件を求めた職探しの動きがあると考えられる。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR 推計)は42.7万人。前月(37.8万人)から+4.9万人と大幅に増加した。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.6%となり、前月(3.4%)から+0.2%ポイント上昇。自発的な離職(自己都合)が増加しており、労働市場への参入が進んだことによる。

全国の15~64歳の就業率(原数値ベース)をみると、72.5%と前月(73.1%)と比べて幾分低下した。性別では、女性の就業率は63.5%と前月(64.4%)と比べて下落したが高水準が続いている。

完全失業率の推移 (季節調整値: %, 万人、2015年1月まで)

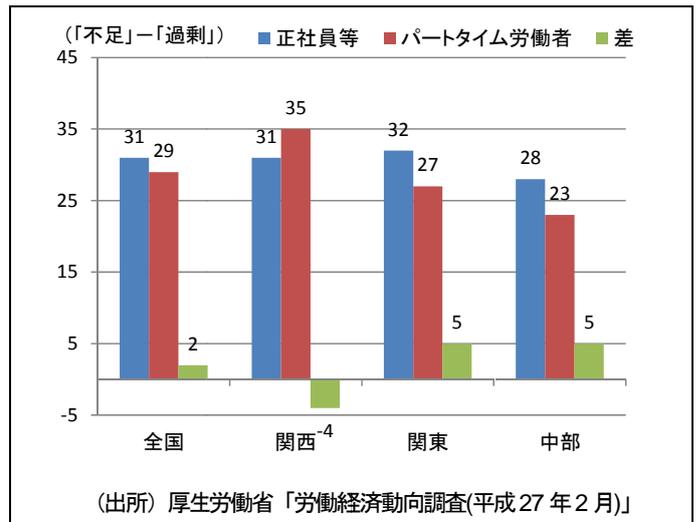


(出所) 総務省「労働力調査」(平成27年2月27日発表)

### Box 地区別労働者の過不足状況

厚生労働省「労働経済動向調査」から、従業員が「不足している」と回答した事業所の割合から「過剰である」と回答した労働者の割合を引いた過不足DIをみると、いずれの地域も不足超過となっている。地区別にみると、全国や関東・中部地区では、正社員の方がパート労働者よりも過不足DIが上回っている。一方、近畿地区では、パートタイム労働者の方が不足していると回答した企業が多くなっている。全国では正社員の不足が深刻になっており、幅広い業種で人材を奪い合っている。関西地域でも今後正社員の不足が深刻な問題となると考えられる。

地区別労働者の過不足DI(2015年2月時点)



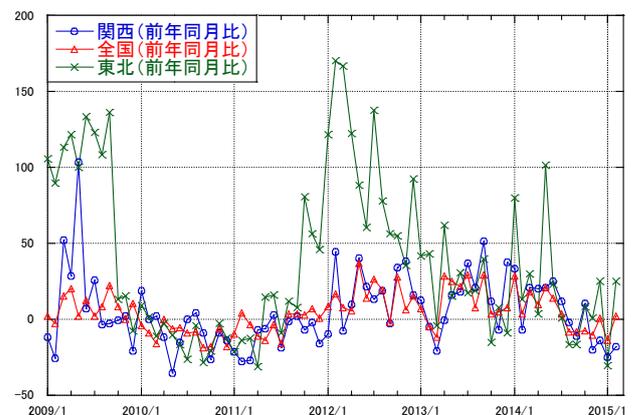
### 【公共投資】

#### (1) 公共工事請負金額

2015年2月関西の公共工事請負金額は644億円で前年同月比-18.3%と4カ月連続の大幅マイナスとなった。全国は7,122億円で同+2.3%と2カ月ぶりの増加。東北は1,852億円で同+24.8%と2カ月ぶりの大幅増加となった。全国では僅かに増加となったが、関西では公共工事受注は減速が続いている。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西、全国共に2カ月連続で前月から減少となった(関西:同-13.4%、全国:同-0.3%)。なお、今月から季節調整指数を改訂している。

公共工事請負金額(前年同月比: %, 2015年2月まで)



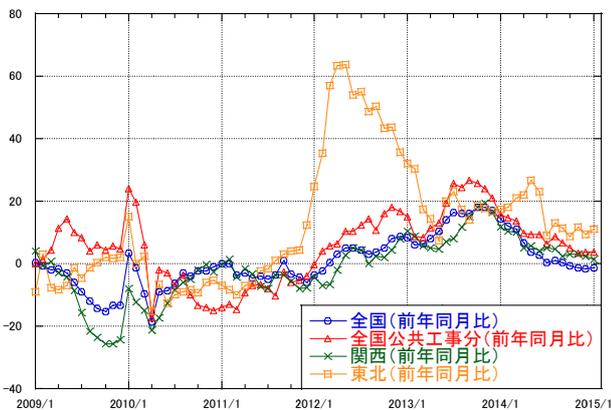
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西1月の建設工事は6,008億円、前年同月比+1.4%と33カ月連続の増加も伸びは10カ月連続で1桁となった。

東北は5,979億円、同+11.2%と42カ月連続の増加。全国は4兆6,110億円となり同-1.3%と4カ月連続の減少。全国の公共工事は2兆1,881億円で同+3.6%と36カ月連続の増加も、伸びは10カ月連続で1桁にとどまった。建設工事の伸びは停滞している。

建設工事(前年同月比: %、2015年1月まで)



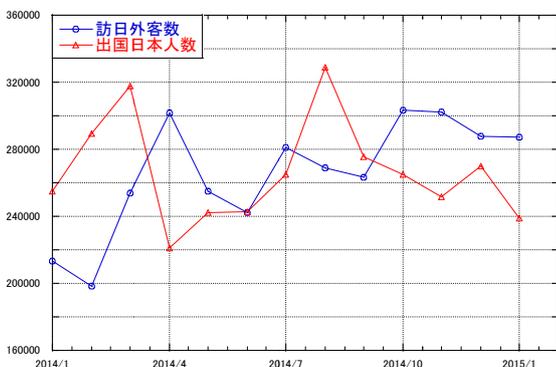
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

関空への訪日外客数は大幅な伸びが持続している。2015年1月には、訪日外客数が287,120人(前年同月比+34.0%)と、24カ月連続で増加。一方、出国日本人は239,090人(同-6.2%)と、13カ月連続の低下となった。

訪日外客数と出国日本人数

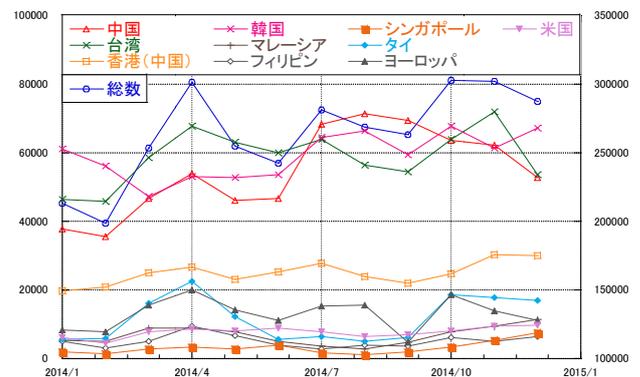


(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、2014年12月には韓国からの入国者数が67,158人(前年同月比+53.4%)と最も多い。次いで、台湾が53,645人(同+50.9%)、中国(香港除き)が52,930人(同+123.9%)、中国(香港)が30,334人(同+36.0%)となった。中国・香港共に訪日外客数の大幅な増加が続いている。

地域別訪日外客数



右軸: 総数、左軸: 各国

(出所) 法務省「出入国管理統計」

他のアジア各国からの入国者数は、タイは16,998人(同+42.2%)で3カ月連続の大幅プラス。シンガポールは7,647人(同+19.4%)と3カ月連続のプラス。フィリピンは6,395人となり、伸びは同+66.8%と大幅増加した。マレーシアは11,480人で同+25.1%の増加となった。

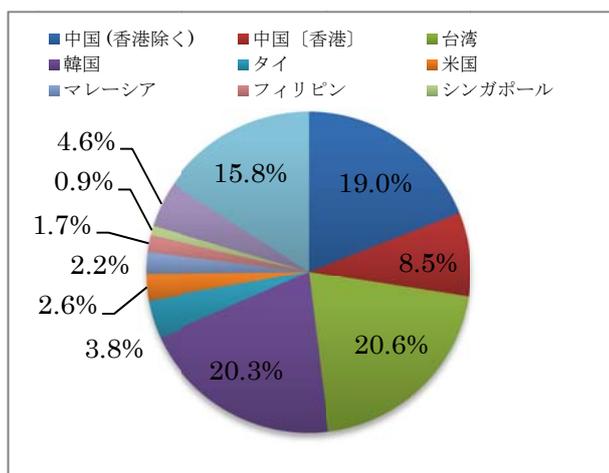
他地域を見ると、ヨーロッパが11,191人(同+10.7%)と3カ月連続のプラス、米国が9,718人(同+48.1%)と4カ月連続のプラスであった。

(3) 地域別訪日外客数 (2014年のトータル)

2014年(暦年)の関空へ入国した訪日外国客を見ると、最も多いのは台湾(65万2,505人)であり、次いで韓国(64万3,539人)となった。中国(香港除き)は60万1,705人、中国(香港)は26万9,347人で、合計は87万1,052人となった。続いて、タイ(12万1,891人)、米国(8万2,462人)、マレーシア(6万9,431人)、フィリピン(5万4,605人)、

シンガポール (2万9,815人) が多い結果となった。ヨーロッパ全体から訪日外客数は14万5,682人で、その他の国から49万9,460人。2014年の総合人数は317万400人に達し、同+36.4%増加した。

2014年地域別訪日外客数割合



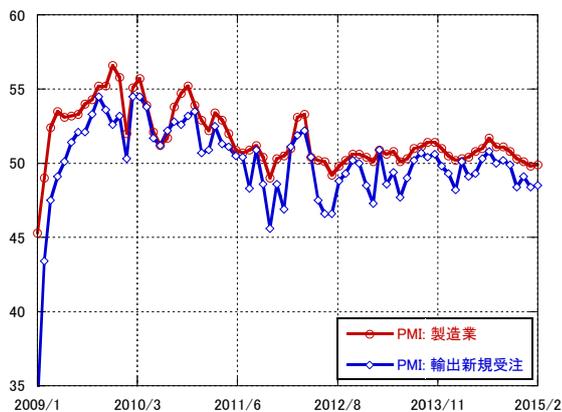
(出所) 法務省「出入国管理統計」

## 【中国景気モニター】

### (1) センチメント

2月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、49.9となり、前月から+0.1ポイント上昇し、5カ月ぶりの改善。しかし2カ月連続で50を下回っている。

中国製造業購買担当者景況指数(2015年2月まで：%)



出所：中国国家统计局; CEIC データベース

うち、生産指数は51.4と同-0.3ポイント低下し、5カ月連続の悪化。新規受注指数は50.4となり、同+0.2ポイント上昇し、7カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は同+0.1ポイント上昇し、48.5となった。5カ月連続で50を下回っている。また雇用指数は47.8となり、前月から-0.1ポイント低下し、4カ月連続のマイナスとなった。2012年6月以来、33カ月連続で50を下回っている。

中国の春節の影響によるものだと中国国家统计局が分析しているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

### (2) 工業生産

1-2月の工業生産は、前月比+0.5%と、2014年12月から-0.3ポイント低下し、11月以来の減速となった。前年同月比は+6.8%となり、2014年12月から-1.1ポイント低下し、減速に転じた。

工業生産指数(2015年2月まで：%)



出所：中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+12.7%)、パソコン・通信設備製造業(同+11.8%)、医薬製造業(同+10.5%)、鉄道・輸送機器製造業(同+10.5%)が高い伸びを示す一方で、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+3.5%)、専用設備製造業(同+3.1%)、電力・熱力生産・供給業(同+3.1%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

### (3) 固定資産投資

2015年1-2月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+13.9%となった。2014年6月以来減速が続いている(1-12月期:同+15.7%)。

産業別に見れば、第1次産業は同+36.6%(2014年12月+33.9%)、第2次産業は同+11.5%(2014年12月+13.2%)、第3次産業は同+14.8%(2014年12月+16.8%)となった。

固定資産投資 (2015年2月まで:%) (累積伸び率)

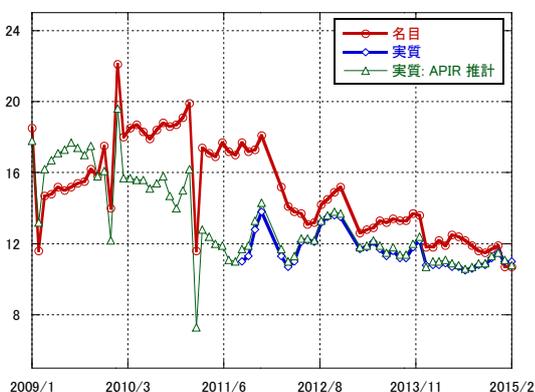


出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

### (4) 消費

1-2月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.7%となり、2014年12月(同+11.9%)から小幅減速した。消費は中国经济成長のエンジンと期待されているが、12月に降減速している。

社会消費品小売総額 (2015年2月まで:%)



注: APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

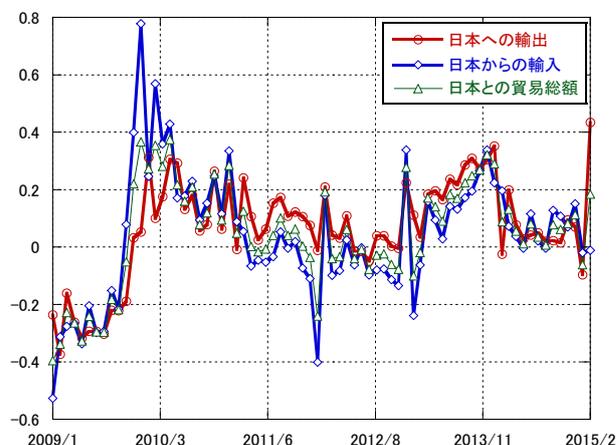
### (5) 貿易動向

2月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+48.3%加速し、先月よりプラスに転じた。輸入額は同-20.8%(速報値)となり、4カ月連続のマイナスとなった。

うち日本への輸出額は同+23.6%となり、7カ月ぶりのプラスとなった。日本からの輸入額は同-14.9%となり、4カ月連続のマイナスとなった。

円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+43.5%となり、先月よりプラスに転じた。日本からの輸入額は同-1.2%となり、2カ月連続のマイナスとなった。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2015年2月まで:%)



出所: 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

Contact: 岡野光洋・林万平・木下祐輔・James Brady

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	14/02M	14/03M	14/04M	14/05M	14/06M	14/07M	14/08M	14/09M	14/10M	14/11M	14/12M	15/01M	15/02M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	53.4	60.1	40.4	43.1	46.8	50.3	49.9	50.2	45.9	43.2	48.2	47.4	52.3
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	50.2	57.0	37.2	42.1	45.1	49.4	45.8	46.7	42.3	39.5	44.2	43.9	48.4
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	37.6	36.8	37.1	39.5	41.2	41.6	41.5	39.6	38.8	36.8	38.3	38.5	39.3
[関西]「暮らし向き(原数値)	34.7	34.1	34.2	37.0	38.5	38.8	39.8	36.9	36.6	34.8	36.0	35.8	37.1
[関西]「収入の増え方(原数値)	36.5	37.0	37.1	37.7	37.7	38.7	38.7	38.0	38.4	36.6	36.6	37.5	37.2
[関西]「雇用環境(原数値)	46.3	45.3	44.5	45.7	48.4	48.4	47.7	45.7	43.7	41.4	44.2	43.7	45.2
[関西]「耐久消費財の買い時判断(原数値)	33.0	30.9	32.5	37.6	40.1	40.4	39.8	37.9	36.3	34.4	36.4	36.8	37.6
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	38.5	37.5	37.0	39.3	41.1	41.5	41.2	39.9	38.9	37.7	38.8	39.1	40.7
[関西]乗用車新規登録届出数(前年同月比%)	20.8	20.4	-8.9	-2.5	-1.8	-1.4	-9.2	0.0	-5.9	-9.5	-0.4	-18.8	UN
[関西]家電販売額(前年同月比%)	34.4	68.6	-18.4	-13.2	-12.3	-3.3	-10.7	-12.1	-11.0	-4.5	-12.3	-19.0	UN
[関西]大型小売店販売額(10億円)	286.6	377.8	281.1	303.7	314.0	335.1	311.0	294.1	308.1	335.1	419.0	335.0	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	3.4	19.3	-5.5	0.0	-1.0	0.5	2.4	1.6	1.0	1.6	0.7	0.6	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1469.0	1956.2	1467.7	1592.4	1631.7	1717.4	1626.3	1531.3	1606.5	1728.6	2155.4	1722.7	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	2.4	17.0	-6.1	-0.5	-1.2	0.3	2.8	1.7	1.0	1.9	0.7	0.6	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	9592.0	11170.0	12424.0	10095.0	12018.0	10038.0	12764.0	11707.0	10816.0	12192.0	11625.0	9605.0	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-13.3	2.5	16.9	-18.6	-1.6	-20.5	10.6	-14.0	-27.3	-12.5	-21.1	-15.0	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	69689.0	69411.0	75286.0	67791.0	75757.0	72880.0	73771.0	75882.0	79171.0	78364.0	76416.0	67713.0	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	1.0	-2.9	-3.3	-15.0	-9.5	-14.1	-12.5	-14.3	-12.3	-14.3	-14.7	-13.0	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	80.6	75.4	73.7	80.0	73.4	73.6	71.8	78.4	73.4	81.6	75.6	79.3	69.9
[関西]マンション契約率(原数値)	77.4	77.8	74.3	85.3	76.4	77.1	71.7	76.9	74.1	80.9	73.0	70.9	67.1
[全国]マンション契約率(季節調整値)	80.4	76.4	74.1	77.5	73.9	83.5	71.9	71.5	65.2	79.0	70.3	69.5	74.5
[全国]マンション契約率(原数値)	80.6	79.8	74.7	78.9	76.6	83.7	69.6	71.6	63.3	78.4	71.0	74.9	74.5
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	78.9	132.2	187.0	173.7	188.3	164.5	116.7	148.5	150.4	88.9	97.2	70.6	64.4
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-6.8	20.8	20.3	21.1	25.0	12.2	-2.0	-11.3	10.8	-20.0	-13.7	-25.1	-18.3
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	695.9	1456.8	1758.3	1312.6	1585.5	1627.3	1127.6	1398.4	1316.1	843.7	894.4	670.8	712.2
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	3.7	18.1	10.0	21.1	14.3	3.5	-8.1	-8.2	-7.4	-10.4	1.0	-13.7	2.3
[関西]建設工事(総合、10億円)	585.3	567.9	442.4	450.5	462.1	475.6	506.1	534.1	556.5	587.8	609.6	600.8	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	10.5	10.1	4.9	5.7	4.2	4.9	4.8	2.3	3.0	3.2	2.4	1.4	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4607.0	4551.9	3512.0	3435.2	3634.4	3738.2	4030.9	4333.2	4522.6	4714.6	4834.6	4611.0	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	12.1	10.9	6.6	3.7	2.8	0.5	1.2	0.3	-0.6	-1.4	-1.7	-1.3	UN
[関西]建設工事(公共工事、10億円)	2123.8	2124.6	1378.3	1301.1	1410.8	1485.5	1703.7	1933.3	2098.8	2247.4	2344.3	2188.1	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	14.7	13.8	9.7	9.4	9.4	6.3	8.7	6.7	5.1	3.5	3.7	3.6	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	105.3	105.9	106.5	109.2	106.7	107.6	103.2	108.6	110.0	104.7	105.4	111.5	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.6	0.6	0.6	2.5	-2.3	0.8	-4.1	5.2	1.3	-4.8	0.7	5.8	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	6.3	6.7	3.0	1.5	5.5	1.3	-1.7	7.9	7.2	-1.8	2.1	0.8	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	3.0	2.4	3.7	6.4	6.4	6.7	7.7	6.6	3.7	5.1	1.7	1.1	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	106.3	106.7	102.4	102.8	102.9	101.6	99.2	106.5	107.7	102.1	102.9	109.6	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	-1.1	0.4	-4.0	0.4	0.1	-1.3	-2.4	7.4	1.1	-5.2	0.8	6.5	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	114.5	112.8	114.9	117.5	117.6	120.4	119.8	120.0	117.6	117.7	117.1	116.2	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.3	-1.5	1.9	2.3	0.1	2.4	-0.5	0.2	-2.0	0.1	-0.5	-0.8	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	101.5	102.2	99.3	100.0	96.6	97.0	95.2	98.0	98.4	97.9	98.7	102.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-2.3	0.7	-2.8	0.7	-3.4	0.4	-1.9	2.9	0.4	-0.5	0.8	3.7	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	6.5	6.5	2.4	-0.8	2.2	-0.1	-3.7	1.7	-0.4	-4.5	0.3	-2.1	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	-3.4	-1.4	-1.9	0.8	2.8	2.9	4.6	4.0	3.8	6.5	5.9	5.8	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	103.4	103.2	98.0	97.0	95.2	95.9	93.9	98.0	98.6	97.2	98.2	103.7	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	-1.0	-0.2	-5.0	-1.0	-1.9	0.7	-2.1	4.4	0.6	-1.4	1.0	5.6	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	104.2	105.7	105.2	108.4	110.6	111.6	112.6	111.8	111.3	112.5	111.7	111.2	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.9	1.4	-0.5	3.0	2.0	0.9	0.9	-0.7	-0.4	1.1	-0.7	-0.4	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-0.3	0.8	0.3	0.8	2.4	2.2	0.2	0.6	1.3	2.0	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.4	0.6	0.1	0.6	2.3	2.2	0.1	0.5	1.1	1.8	2.6	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	-0.1	0.7	0.7	0.6	1.0	2.4	0.9	0.7	0.2	0.1	1.3	1.3	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	4.1	4.1	4.2	4.1	4.4	4.6	4.0	4.2	4.1	3.8	3.7	4.0	UN
[関西]完全失業率(原数値)	4.3	4.4	4.3	4.0	4.2	4.7	4.0	4.1	4.3	3.6	3.4	4.2	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.60	1.61	1.55	1.55	1.60	1.57	1.57	1.58	1.60	1.60	1.68	1.72	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.63	1.64	1.64	1.64	1.65	1.66	1.65	1.68	1.69	1.69	1.77	1.77	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	0.99	1.00	1.00	1.02	1.02	1.03	1.03	1.02	1.02	1.04	1.06	1.06	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.05	1.07	1.08	1.09	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.12	1.14	1.14	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	51.8	-112.4	-10.7	-26.2	-22.5	-63.1	44.4	-65.6	2.3	-21.9	51.1	-75.8	-36.2
[関西]輸出(10億円)	1212.5	1351.7	1312.7	1231.3	1288.9	1310.8	1273.6	1348.5	1425.3	1322.6	1500.8	1304.8	1242.5
[関西]輸出(前年同月比%)	15.0	3.1	8.6	1.2	1.5	5.5	1.3	7.5	11.0	6.5	14.7	20.0	2.5
[関西]輸入(10億円)	1160.7	1464.0	1323.4	1257.4	1311.4	1373.9	1229.1	1414.1	1423.0	1345.0	1449.6	1380.5	1278.6
[関西]輸入(前年同月比%)	7.6	20.2	2.8	-0.2	13.9	0.6	-1.7	9.7	1.9	-0.2	4.6	-10.9	10.2

注1：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く

## Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
2-Mar	3-Mar 毎月勤労統計 (1月:速報値) 中国製造業 PMI (3月)	4-Mar	5-Mar	6-Mar
9-Mar 景気ウォッチャー調査 (2月)	10-Mar	11-Mar	12-Mar 消費動向調査(2月) 近畿鉱工業生産指数 (1月速報) 中国輸出入 (3月:速報値)	13-Mar 全国鉱工業生産指数 (1月:確報値) 商業動態調査 (1月:確報値)
16-Mar マンション契約率 (2月) 公共工事前払保証額 統計(2月)	17-Mar 建設総合統計(12月)	18-Mar 近畿貿易統計 (2月速報) 中国工業生産(3月) 中国固定資産投資 (3月) 中国消費小売総額 (3月)	19-Mar 全国貿易統計 (2月:速報) 1-3月期中国 GDP	20-Mar
23-Mar	24-Mar 近畿鉱工業生産指数 (1月確報)	25-Mar 近畿貿易統計 (2月確速)	26-Mar	27-Mar 商業動態調査 (2月:速報値) 求人倍率(2月) 完全失業率(2月)
30-Mar 全国鉱工業生産指数 (2月:速報値) 全国貿易統計 (2月:確速)	31-Mar 毎月勤労統計 (1月:確報値) 毎月勤労統計 (2月:速報値) 新設住宅着工(2月)	1-Apr	2-Apr	3-Apr